

安心・安全の科学研究教育センターニュース

Center for Risk Management and Safety Sciences

【目次】

- ❖ 教育研究高度化経費による基盤情報の整備と研究・教育プロジェクトの推進
- ❖ 文部科学省科学技術振興調整費 新興分野人材養成プログラム
「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」の活動と10月生募集
- ❖ センターの活動紹介
- ❖ センターからのお知らせ、編集後記

第2号



教育研究高度化経費による基盤情報の整備と研究・教育プロジェクトの推進

安心・安全の科学研究教育センター長 関根 和喜

安心・安全の科学研究教育センターでは、「安心・安全の科学研究教育拠点形成のための基盤情報の整備と発信」というテーマで平成17年度教育研究高度化経費を申請・採択していただき、事業を開始しました。ここでは、その概要についてご紹介したいと思います。

1. 事業の目的

近年、安心・安全を脅かす事故や環境汚染などによる社会不安が広がっており、本センターでは研究面、教育面でこの課題に取り組みはじめています。「安心・安全の科学」という新たな文理融合した学問分野を創出し、「安心・安全の科学研究教育センターをその拠点として位置づける」ために、本事業では、各部局の先生方からも協力を得ながら、国内外の主要な安心・安全関連の研究教育基盤情報を収集整備することを目的としています。さらに産業安全分野から環境分野、社会科学分野などの幅広い範囲で、情報収集とそれらの整理を行い、本学の研究教育ポテンシャルを活かせる分野について検討し、研究・教育プロジェクト等として成果を有効に活用することを考えています。

2. 事業の推進体制

当センターを拠点として、センター運営委員や文部科学省科学技術振興調整費新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」にご協力いただいている先生方に参加していただき、既に2回の打ち合わせで、検討グループや事業内容について議論してきました。当センターが総括を行い、教育学研究科や環境情報研究院等の教員を中心とした「小中学校等を対象とした学校安全関連」、工学研究院の教員を中心とした「産業安全関連」、国際社会科学研究科やセンターの教員を中心とした「ヒューマンファクター関連」、センターや工学研究院の教員を中心とし

た「化学物質管理・リスクコミュニケーション関連」の4グループで事業を進めることとしています。さらに、ご関心をお持ちの先生方や関連分野の先生方には、是非とも加わっていただきたいと思っております。

3. 事業の概要と期待される成果

本事業の具体的に実施することと期待される成果として、次のことを想定しています。

①「安心・安全」の科学に関する情報収集・発信

様々な分野の安心・安全に関する情報を本センターに整備するとともに、ホームページなどを通じて学内外に情報発信します。

②本学の「安心・安全」に関する人的資源と研究・教育ポテンシャルの整理・発信

本学の先進的な研究・教育ポテンシャルをとりまとめて学内外に発信します。これにより産学連携や研究教育プロジェクトの企画・コーディネートに活用できると考えています。

③本学のポテンシャルを活用した「安心・安全」に関する研究・教育プロジェクトの企画・申請

「安心・安全」分野における本学および本センターのポテンシャルの向上と研究教育拠点としての位置づけの強化を目指しています。

4. おわりに

本センターはスタッフは少ないですが、全学からご協力をいただきながら、これから様々な事業を試みたいと考えています。ぜひ「安心・安全」に関連した情報収集・発信や研究・教育プロジェクトにご興味のある皆様には、積極的にご参加いただき、ご意見・ご要望をいただければと思います。よろしくご協力をいただけますようお願い致します。



「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」の活動と10月生募集

ユニット実行委員長 岡 泰資

1. ユニット登録生募集のおしらせ

学内の横断的な組織である「安心・安全の科学研究教育センター」を教育拠点として、リスクマネジメントの手法を的確、かつ総合的に適用できる高度な意志決定能力を持つ人材育成を目指した、大学院レベルの教育プログラムである「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット(以下本ユニットと呼びます。)」の10月生募集を行います。

今回の募集は、本学へ10月入学した大学院生だけではなく、4月の時点で情報が少ないために登録の機会を逃した人や、既履修生からユニット特設・演習等の様子を聞いて、改めて興味を持った既に在籍する大学院生も対象としています。

後学期にはユニット特設科目(必修)「リスクコミュニケーション・ワークショップ(以下RCWS)IA」の他、ユニット専任の講師陣による講義も多数開講されます。「RCWS-IA」では、文系理系といった垣根を越えて、リスクをキーワードに、それぞれ3つのサブテーマで構成された9つのグループを用意しました。

安心・安全の科学研究教育センターがある理学研究棟3階、各研究科・学府の大学院学務(教務)係でポスターを掲示し、募集要綱・履修案内を配布しています。

また、登録希望者の方への説明会は10月5日(水)16時15分から16時55分に中央図書館メディアホールにて開催が予定されています。

登録申請時の提出書類には指導教員のサインが必要となります。御指導されている先生方におかれましても御理解・御協力の程宜しくお願い致します。

2. 新ウェブサイトのご案内

Web対応型情報共有ソフトウェア「DocuShare™」の導入に併せて、6月にリニューアルしました。ユニット登録生と関連教員はユーザ認証によるセキュアな環境でレポートの提出、添削などが可能となりました。また掲示板機能にて、教室変更や休講のお知らせも配信しています。「DocuShare™」内のデータベースに整理された情報は、冗長性なく共有可能で検索性にも優れるため、履修生がリスクに対してどのような考え方をもちたのか等、カリキュラム内容の適正と学生自身の習熟度を測る判断材料として利用できることから、教員側の視点からも多数のメリットがあります。関連科目をご担当頂いております先生におかれましてご関心があれば、優先的な設定を実施させて頂きたいと存じますのでユニット事務までお問い合わせ下さい。



3. 公開セミナー報告

7月、8月と連続してRCWS-IBの一環とした公開セミナーを開催しました。ユニット登録生だけでなく、他大学の学生の参加や、多数の企業からの参加があり、災害防止・リスク低減という今日的な問題をトータルに取り扱える人材、安心・社会を構築するために必要なリスクコミュニケーションを担うべき人材も強く社会から要望されていることを実感させられました。今年度、11月下旬と2月上旬にそれぞれ公開セミナーの開催を予定しています。詳細は安心・安全の科学研究教育センターのウェブサイトでも案内していきます。

4. ワークショップ報告会を終えて

前学期に開講した「RCWS-IB」では、「新燃料・新エネルギーシステムの導入とリスクアセスメント」、「化学物質のリスクコミュニケーション手法」、「化学プラントのリスクアセスメント」、「確率論的リスクアセスメント実習」、「質問紙調査法実習」、「GIS(地理情報システム)を用いた都市におけるリスクアセスメント」と各テーマに分かれて講義・演習が行われました。最終回には学生を主体とした合同発表会が催され、活発な質疑応答がなされました。



図 RCWS-IB最終報告会の様子(8月1日)

5. 学習環境の整備

理学研究棟302室には、リスクマネジメントに関連した書籍やジャーナルを取り揃えている他、データベースの有料検索やeラーニングに対応したパソコンの開放を行っています。ユニット登録生は講義・演習時間中では対応しきれない分を自主的に学習するためのスペースとして利用できます。

eラーニング用教材

熱傷薬傷災害の安全知識コース、爆発火災の安全知識コース、はさまれ・巻き込まれ災害の安全知識コース、電気災害の安全知識コース、ヒューマンエラー防止のための要因分析コース、ヒューマンエラー防止のためのエラー自己制御コース、伝熱の基礎コース、反応の基礎コース

定期購読ジャーナル

International Journal of Occupational and Environment Health, International Journal of Reliability Quantity, and Safety Engineering, Risk Analysis, Fire Safety Journal, Journal of Safety Research, Journal of Applied Psychology, Human Communication Research, Journal of Applied Social Psychology, Journal of Cross-Cultural Psychology, Journal of Personality and Social Psychology

センターの活動紹介

第3回 イブニングセミナー

4月13日に安心・安全の科学研究教育センター第3回イブニングセミナーを開催しました。大学院工学研究棟7階中会議室において、大阪大学で実施されている新興分野人材養成プログラム「環境リスク管理のための人材養成」の概要について大阪大学大学院工学研究科の盛岡通教授にご講演いただきました。このプログラムは大阪大学大学院環境・エネルギー工学専攻で2004年10月から2009年3月まで開講されており、大学・大学院等における環境リスク管理の教育の向上、環境リスク管理の知識と技量を持つ人材（環境リスクマネージャー）の供給、実務に携わる者に研修を実施し環境リスクの重要性の啓蒙を通して企業や組織、社会の期待に応えることを目的としています。当日は学内の教員、学生など25名の受講がありました。当センターを拠点に実施している人材養成プログラムとも関連する内容であることから、今後連携した事業の実施も考えています。

安全・健康・快適フェア(講演、ブース出展)

5月18日～20日に東京ビッグサイトで「安全・健康・快適フェア—安全衛生総合展 2005—」(全国安全会議、中央労働災害防止協会主催)が開催されました。当センターでは、主催者からの要請を受けて講演およびブースの出展を行いました。

ブースでは、センターの活動や本学の安心・安全関連の研究教育について紹介するパネル展示、センターのパンフレットやニュース、YNU 産学交流会資料(共同研究推進センター提供)等の配布を行いました。また、会場内ステージで行われた特別セミナーではセンター長の関根和喜教授から「安心・安全のためのリスクマネジメント技術者を育てる」と題して講演し、本学で進める安心・安全の科学の分野の研究・教育について紹介しました。来場者からは、特に社会人向けの大学院教育や公開講座についての期待の声が多数聞かれました。

参考：http://www.jisha.or.jp/event_campaign/event/akkfair/

公開セミナー

安心・安全の科学研究教育センター公開セミナーを7月、8月に2回開催しました。これらは「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」のリスクコミュニケーションワークショップ IB の一環であるセミナーをユニット登録生だけでなく、公開講座として広く社会人の方々にも聴講できるようにしたものです。いずれのセミナーも外部から多数の参加があり、質疑・討論なども熱心に行われ、大変盛況でした。

❖ 「経営者のためのリスクマネジメント」

(7月25日、工学部講義棟 A201)

(株)三菱総合研究所の野口和彦参与から「経営者のためのリスクマネジメント」、国立医薬品食品衛生研究所の山本茂貴部長から「BSE問題とリスクマネジメント」、本学工学研究院の大谷英雄教授から「化学産業におけるリスクマネジメント」と題してご講演いただき、活発な議論がなされました。参加者は80名でした。

❖ 「リスク分析とリスクマネジメントにおける人間のエラーの位置づけ」(8月12日、工学部講義棟 A107)

スウェーデンのリンシェーピング大学の Erik Hollnagel 教授にご講演いただき、センターの丹羽雄二助教授から日本語でのフォローアップを行いました。学外からも非常に多数の申込があり、参加者は128名に達しました。

安心・安全関連の研究・教育プロジェクトの支援

安心・安全の科学研究教育センターでは、「安心・安全」をキーワードとして、下表のような科学研究費などに文理融合型の研究・教育プロジェクトを積極的に企画・申請しており、関連の先生方にもご協力をお願いしています。また、各部局や各先生方が検討されている「安心・安全」に関わる様々なプロジェクトも支援(研究協力や各種情報提供など)していきたいと思っています。お気軽にご相談下さい。

「安心・安全」関連の内容で申請できる主な競争的資金は以下のようなものがあります。

文部科学省 科学研究費補助金(申請10～11月)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm

文部科学省 科学技術振興調整費

http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chousei/

厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金(申請10～12月)

<http://www.mhlw.go.jp/wp/kenkyu/>

国土交通省 運輸分野基礎的研究推進制度(申請2～4月)

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/tec/kiso/05_boshu.html

(交通機関の安全・環境保全性について等)

環境省 廃棄物処理等科学研究費補助金(申請12～1月)

http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/kagaku/

環境省 地球環境研究総合推進費(申請11～12月)

<http://www.env.go.jp/earth/suishinhi/>

消防庁 消防防災科学技術研究開発推進制度(申請2～3月)

<http://www.fdma.go.jp/html/seido/>

安心・安全関連の研究者情報の発信について

本学の安心・安全関連の研究者情報をセンターホームページに掲載して、学内外に発信する予定(10月中)です。今回はこれまでのセンターの事業にご協力いただいた先生方に情報提供を呼びかけましたが、情報をお寄せいただければ、追加掲載していきます。

センターからのお知らせ

安心・安全関連の学内外の動き

◆各大学で学生や教職員の安全衛生の確保や周辺の環境保全のために、さまざまな取り組みが行われています。センターではこれらの情報も収集し、紹介していきたいと思っています。

◆私立大学21校が参加する「私立大学社会的責任研究会」では、民間企業で盛んに取り組まれている企業の社会的責任(CSR)を大学に適用しようと検討しており、大学のリスクマネジメントを含んだ「私立大学の社会的責任に関する研究報告」をとりまとめています。(資料をご覧になりたい方はセンターまで)

◆千葉大学や筑波大学、岡山大学、明治大学、東海大学など、ISO14001(環境マネジメントシステム)の認証を取得する大学が増えています。既に全国でこの認証を取得した大学は42校あります。

◆本学と横浜市大との医工連携事業の一環として発足した横浜医療安全研究会の3回目の集まりが9月21日にありました。双方から、医療安全教育や産業安全についての話題提供と議論が行われました。第3回の研究会は12月9日に行われます。ご興味のある方は、センターまでご連絡下さい。

安心・安全関連のセミナーなど

工学研究院安全衛生セミナー

-学部4年生・大学院生の安全衛生-

主催：工学研究院安全衛生委員会

日時：10月13日(木) 14:00~16:10

場所：教育文化ホール 大集会室

味の素(株)の片岡芳男氏から「研究室における安全衛生」、本学工学研究院の大谷英雄教授から「研究室における事故の話」についてのご講演があります。工学部4年生・工学研究院の大学院生向けの企画ですが、環境情報学府や教育学研究科など、研究室で実験を行う学生の皆さんにはぜひ聞いてもらいたい内容となっています。興味のある方はどなたでも聴講できるとのことです。(申し込みは不要です)

問合せ：工学研究院事務長補佐 太田(内線：3802)

リスクマネジメントに関する人材養成プログラム4大学合同セッション

主催：日本リスク研究学会、

大阪大「環境リスク管理人材養成」プログラム本部

協力：横浜国大、東京農工大、お茶の水女子大

日時：11月14日(月) 13:00~15:30

場所：大阪大学中之島センター10F 佐治敬三メモリアルホール

本学をはじめ大阪大、東京農工大、お茶の水女子大で推進されているリスクマネジメント関連の人材養成プログラムに関して、各プログラムの目的や運用実態、

これまでの成果等が紹介されるとともに、これらのプログラムの将来像等について討議し、社会に向けて情報発信します。本学からは、関根センター長が講演およびパネルディスカッションに参加します。

参考：<http://rio.env.eng.osaka-u.ac.jp/risk/event.html>

安心・安全センターの所在

中央図書館近くの理学研究棟の3階にあります。



安心・安全の科学研究教育センター教職員

センター(社会人教育、研究開発ほか)担当

センター長(併任)	関根和喜	技術専門職員	鈴木雄二
助教授	小林 剛	事務補佐員	河村麻子

高度リスクマネジメント技術者育成ユニット担当

特任教員(教授)	田村昌三	特任教員(助手)	古屋貴司
特任教員(教授)	小林英男	技術補佐員	池上章代
特任教員(助教授)	丹羽雄二		
特任教員(助教授)	村上史朗	非常勤講師	首藤由紀

編集後記

- ◆皆様、ぜひ一度センターをのぞいてみて下さい。(T)
- ◆公開セミナーでは社会人の方々の関心の高さを実感しました。(Y)
- ◆100号への道のりは長く...第2号発行です!(M)

『ご意見やお知らせ等の記事をお寄せ下さい』

安心・安全の科学研究教育センターニュース

第2号 2005年9月30日発行

国立大学法人 横浜国立大学

安心・安全の科学研究教育センター



〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
(理学研究棟3階301, 302号室)

TEL: 045-339-3775, 3776 (社会人教育, 研究開発ほか)

045-339-3772 (高度リスクマネジメント技術者育成ユニット)

FAX: 045-339-4294

URL: <http://www.anshin.ynu.ac.jp>

E-MAIL: anshin@ynu.ac.jp